

■ 調査結果のまとめ

1 就学前・小学生共通

1. 子育て家庭の状況

①兄弟の状況

●就学前、小学生ともに2人兄弟が最も高い。就学前では1人っ子、小学生では3人が2番目に高い。

●「3人」「4人」は北谷中学校区の方で割合が高い。

兄弟の数を見ると、就学前児童では、「2人」の38.9%が最も高く、次いで「1人」の30.1%、「3人」の19.0%となっている。小学生でも「2人」が38.1%で最も高いが、「1人」は小学生では9.0%と大幅に下がる。また「3人」は33.9%へと大幅に上昇している。

中学校区別に見ると、「3人」、「4人」は北谷中学校区の方が、桑江中学校区よりやや高くなっている。また、「1人」は就学前児童では、桑江中学校の方が高い。

②世帯の状況

●核家族世帯が圧倒的に多く、北谷中学校区の方で桑江中学校区より僅かに高い。

世帯構成について見ると、「核家族世帯」が就学前児童は83.8%、小学生は73.6%となっており、ほとんどの家庭が核家族であることがわかる。また、「母子世帯」は就学前児童の5.1%、小学生では12.9%となっている。

世帯構成を中学校区別に見ると、核家族世帯は、就学前児童、小学生ともに北谷中学校区の方が僅かながら高くなっている。また3世代世帯については、就学前児童で桑江中学校区の方が僅かながら高くなっている。

③日頃お子さんを見てもらえる方

●多くの家庭が祖父母・親族の支援を受けられるが、10%程度は見てもらえる人がいない。

お子さんを見てもらえる方について尋ねたところ、祖父母や親族等が「緊急時や用事の際」あるいは「日常的に」見てもらえるという回答が大半を占めているものの、お子さんを見てもらえる方が「いずれもない」という回答が就学前児童で14.1%、小学生では10.4%ある。

④相談できる人・場所の有無、孤独感

●相談相手が「いない」人では、子育てで孤立を感じている割合が高い。

気軽に相談できる人がいる・場所があるという回答が90%を超えているが、その一方で、「相談できる人がいない(場所がない)」という人は就学前児童保護者で3.5%、小学生保護者では5.7%いる。

子育てなどでの“孤独感については、就学前児童保護者の24.4%、小学生保護者の18.0%が感じている。

世帯構成別で見ると、ひとり親世帯の方で、孤立感を感じる割合が高くなっていることがわかる。

相談先の有無別に見ると、「相談できる人がいる」という回答では、“孤独感あり”が就学前児童で22.3% (小学生16.5%) であるのに対し、「相談できる人がいない」では、就学前児童で72.2% (小学生が46.9%) と7割余りを占めている。さらに「(孤独感を)よく感じる」も「相談できる人はいない」で27.8% (小学生が6.1%) となっており、相談先の有無と子育ての孤独感で関係性が見られる。

⑤相談先・相談内容

●相談先は身近な人が大半であるが、悩み事は専門的な内容が多くなっている。

相談先としては、祖父母や友人・知人といった身近な人をあげる回答が大半を占めている。しかし、相談内容では子どもの発達や栄養・教育などの専門的なことも高くなっており、身近な人だけではなく専門的な人や機関による相談や情報提供などの充実も必要と思われる。

⑥行政に望む子育て支援の内容

●経済的負担軽減や子どもと楽しめる場の整備を求める声が最も高い。

「保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減して欲しい」(66.9%)という経済的負担軽減を望む声と、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい」(60.1%)が特に高くなっている。また、「公園を増やして欲しい」が40.5%あり、3番目に高い。

2. 母親の就労について

①母親の現在の就労状況・就労希望

●母親の就労率(80.6%)・就労希望率(87.0%)は前回調査時点より上昇している。

就学前児童の母親の就労状況を見ると、フルタイムで就労している母親は就学前児童保護者で52.9%(小学生保護者で46.4%)、パート・アルバイト等が27.7%(小学生保護者は33.2%)であり、就労している母親が就学前児童保護者の80.6%(小学生保護者の79.6%)を占めている。また、就労希望率は87.0%となっている。第一期計画策定時のニーズ調査(前回調査)では、母親の就労率(就学前児童保護者)は68.9%、就労希望率(同)は80.4%であり、女性の就労率や就労希望率は前回は上回っている。また、フルタイムでの就労割合が前回調査では40.5%であったが、今回は52.9%と大きく上昇している。

母親の就労率上昇は、共働き家庭の増加となり、保育ニーズの上昇にも直結する。児童人口が急減していなければ、前回調査時点と比べて、量の見込みは上がるものと推察される。

※母親の就労希望率=(「現在就労している母親数」+「現在未就労で“今すぐにも働きたい”と回答した母親数」)
÷有効回答者の母親数で算出

②現在就労していない母親の就労希望

●すぐにでも働きたいという母親は34.7%。

就労していない母親のうち、すぐにでも働きたいと考えている割合は、就学前児童保護者で34.7%、小学生保護者の32.5%となっている。特に就学前児童保護者では就労したい割合が高く、保育園入所希望の「潜在的ニーズ」として量の見込みを算出する際に考慮する必要がある。

2 就学前児童の調査結果より

1. 教育・保育サービスの利用について

①教育・保育のサービスの利用の有無

- 2歳以上の子どもの約8割が教育・保育施設等を利用している。

就学前の教育・保育サービス利用は74.6%であり、1歳児では4割余り、2歳児以上は8割を超える利用率となっている。また、認可外保育施設利用者を除いた教育・保育施設の就園率は3歳児で61.0%、4歳児で66.2%、5歳児で84.0%となっており、3～5歳児全体では70.4%となる。

②利用している教育・保育サービスの状況

- 「社会福祉法人の認可保育所」の利用率が最も高いが、「認可外の保育施設」の利用率も同程度ある。

「社会福祉法人の認可保育所」の利用が25.5%で最も高いが、「認可外の保育施設」が21.3%で同程度利用されている。認可外の保育施設利用者の中には認可保育所を待機となって利用している人も多く、こういった対象者も潜在的な保育ニーズとして捉える必要がある。

③教育・保育サービスを利用していない理由

- 「空きがない」ために教育・保育施設等を利用していない割合は32.6%。

保育・教育のサービスに空きがないために利用していない、つまり、“潜在的も含めての待機児童”となっている割合は32.6%であった。子どもの年齢別では1歳児から3歳児でこの回答が高い。特に1歳児では52.2%を占める。

“空きがない”を中学校区別にみると、桑江中学校区の方が39.7%で、北谷中学校区より16ポイントほど高い。

④教育・保育のサービスの利用希望

●「町立保育所」、「社会福祉法人の認可保育所」を望む声が非常に高い。居住地の近くの施設利用希望が高い。

教育・保育サービスの利用希望では、「町立保育所」が43.1%、「民間の認可保育園」を望む声が38.2%で高くなっている。また、「町立幼稚園」が31.7%でこれらについて高い。

現在、利用している教育・保育サービスを今後も希望する人が概ね80%以上となっているが、現在「認可外の保育施設」を利用している人で今後も認可外を希望する割合は56.8%と低く、「町立保育所」(35.8%)、「社会福祉法人の認可保育所」(34.6%)など、保育所等を希望する声も3割程度見られる。

また、利用したい場所と居住地区との関係を見ると、居住している地区内での教育・保育サービス利用希望が2つの中学校区ともに8割程度となっており、住まいから近いところに預けたいという声が高いことがわかる。

⑤教育・保育サービスを選ぶときに重視すること

●居住地に近い場所を選びたいという声が、両中学校区とも非常に高い。

教育・保育サービスを選ぶ際に重視することとしては、「居住地に近い場所」が最も高く79.8%を占めている。そのほか、「保育士、先生、職員の対応」が72.2%、「教育・保育の方針や内容」が61.6%と続いている。これら3項目が特に高い。

教育・保育施設を選ぶポイントとして「居住地の近く」が利用先の希望や園選びで重視することとして多く挙げられており、供給体制の整備においてもこの点を踏まえ、各地域の児童人口等を踏まえて提供区域ごとの施設等整備を図る必要がある。

⑥町立幼稚園の複数年保育の利用希望

●3歳から通わせたいという声は26.8%となっている。

町立幼稚園の複数年保育希望については、「3歳から通わせたい」が26.8%で最も高かった。「4歳から」は9.6%、「5歳から」は17.2%であるが、「よくわからない」が23.9%あった。また、「3歳から」という声は桑江中学校区で31.7%あり、北谷中学校区より10ポイント程高くなっている。

なお、保育所等を利用する(幼稚園は利用しない)という声が20.2%あった。

⑦町立幼稚園を複数年保育で利用する際の条件について

●「土曜日の受け入れ」や「毎日給食にして欲しい」などの声が見られた。

町立幼稚園を複数年保育で利用する際の条件等について尋ねた。「土曜日の受け入れ」、「毎日給食にして欲しい」、「19時までの園長を希望」の3つが特に多く見られた。

2. 土曜日、日曜・祝日、長期休暇中の教育・保育サービスの利用

①土曜日・日曜日の利用希望

●土日の利用希望も一定程度見られる。

土曜日は63%、日曜・祝日は29.1%が教育保育施設を利用したいと回答している。土曜日のほか、日曜・祝日の利用希望も少なくない。なお、土曜日の毎週利用希望は30.7%、日曜日の毎週利用希望は3.3%であった。

②幼稚園の長期休暇期間の教育・保育サービスの利用希望

●夏休み等の長期休暇期間も教育・保育サービスの利用が望まれている。

幼稚園の夏休みなど長期休暇期間における施設の利用希望は、「ほぼ毎日利用したい」が49.2%を占めている。

3. 地域子育て支援センターについて

①地域子育て支援センターの利用状況、利用希望

●現在の利用率は10%程度で低いが、今後の利用希望は27.2%ある。

地域子育て支援センターの現在の利用者は10.0%であり、現在利用していないが今後利用したい割合は27.2%となっている。特に、0歳児(52.9%)での利用希望が半数を超えている。

②地域子育て支援センターで利用したい内容

●一時預かりや教育・保育施設等の入所相談、病児保育の希望が比較的高い。

地域子育て支援センターで利用が望まれている内容は、「一時預かり」(38.9%)が最も高く、約40%を占めている。また、「保育所や幼稚園の入所・利用に関する相談」(31.9%)と「病児保育」(31.1%)、「子育てに関する相談」が30.1%で比較的高い。子どもの年齢別にみると、0.1歳児といった低年齢児では、保育所利用相談や子育て講演会、親子の交流の場などを望む声が高く、2・3歳児では「一時預かり」、3～5歳児では「病児保育」の声が高い傾向にある。

4. 病児・病後児保育について

①病児・病後児保育の利用希望

●病児保育の利用希望は4割ある。

病児・病後児保育の利用希望は40.4%となっている。1年間で利用したい日数については、「5日以内」が54.3%を占める。

5. 一時預かりについて

①一時預かりの利用意向

●一時預かりの利用希望は約4割であり、0・1歳児や6歳児で比較的高い。

一時預かりを「利用したい」という声は39.3%を占めており、0歳児（43.1%）、1歳児（46.9%）のほか、6歳児（44.6%）も比較的高い。

6. 育児休業等について

①育児休業の取得状況・取得しなかった理由

●母親全体の中では約半数が育休を取得。父親の取得は僅かである。

育児休業を取得した割合は、母親全体の中では49.1%、父親では6.7%となっている。また、当時就労していた人を母数として算出した“育児休業取得率”は、母親で80.1%、父親では7.1%となる。全国値（2018年）は母親82.2%、父親6.2%であり、父親の取得率は僅かながら全国を上回っている。

育児休業を取得していない理由としては、母親では「職場に育児休業の制度がなかった」が27.4%、「子育てや家事に専念するため退職した」が25.8%で高い。

②育児休業の期間について（母親）

●保育所入所できるタイミングを考慮しながら、希望する育休期間を早めるなどしている。

育児休業は、子どもが1歳になるまで取得したいという希望が76.4%で圧倒的に高い。育児休業を希望通りの期間取得できたという回答は45.2%、「希望より早く復帰した」が44.6%でそれぞれ4割半ばとなっている。希望より早く復帰した理由は、「希望する保育所に入るため」が55.7%で大半を占めている。

また、希望より遅く復帰した理由でも「希望する保育所に入れなかったため」が76.5%で圧倒的に高く、育休の復帰時期を早めたり遅くしたりしている大きな理由には、“保育所入所”が影響していることがわかる。

③仕事と子育ての両立のため必要な企業の取り組み

●子どもの病気やけがの時に休暇を取れる職場環境などが求められている。

仕事と子育ての両立のため必要な企業の取り組みとしては、「子どもが病気やけがの時などに休暇を取れる環境」が58.7%で最も高い。また「妊娠中、育児期間中の勤務を軽減する」(46.8%)、「子育てと仕事の両立に向け、職場内の理解を深める教育を行う」(44.4%)が比較的高くなっている。

仕事と子育てを両立しやすい職場環境とともに、職場の理解が求められており、安心して働きそして子育てもできるように、企業への啓発及び企業と連携した取り組みも必要である。

3 小学校低学年児童の調査結果より

1. 放課後の過ごし方について

①放課後の過ごし方

●子どもの放課後の過ごし方では、「習い事」を望む声が比較的高い。

小学生の放課後の過ごし方では、「自宅」(58.3%)のほかに、「習い事」(47.3%)が特に高い。

年齢別に見ると、「習い事」は2年生以上の各学年で高く、「自宅」は3年生以上で高くなる。また、「放課後児童クラブ」は1年生が最も高く、学年が上がるとともに割合が減少していく。

中学校区別に見ると、「部活・クラブ活動」や「祖父母宅や友人・知人宅」は、北谷中学校区の方が、桑江中学校区よりやや高くなっている。

希望する放課後の過ごし方では、「自宅」(44.3%)よりも「習い事」(51.1%)の方が高くなっている。また「習い事」は、1年生から5年生までで最も高くなっており、6年生のみ「自宅」の割合が習い事を上回っている。

2. 放課後児童クラブ(学童保育)の利用について

①放課後児童クラブ(学童保育)の現在の利用状況と利用希望

●低学年では3～4割程度、高学年でも2割半ばの利用希望が見られる。

放課後児童クラブの現在の利用率は16.5%であり、学年別に見ると1年生が36.8%、2年生が23.0%、3年生が17.1%と、学年が上がるとともに利用割合は減少している。

今後の利用希望率は30.5%となっている。学年別では、1年生が51.6%、2年生が40.0%、3年生が30.0%であり、現在の利用率を大きく上回っている。

また、4年生以降の高学年では、現在の利用率は10%未満にとどまっているが、今後の利用希望率は15～17%程度あり、現在の利用を上回るニーズが見受けられる。

②小学校区別に見る放課後児童クラブ(学童保育)の利用状況と利用希望

●浜川小学校区と北谷小学校区で、利用ニーズがやや高い。

放課後児童クラブの利用率を小学校区別に見ると、各小学校区とも10%台の利用率となっているが、今後の利用希望率では、浜川小学校区と北谷小学校区が30%台前半で、他の2校よりやや高い。

放課後児童クラブについては整備が進んでいる地域と進んでいない地域の差が見られる。利用ニーズも、現在の利用率が高いところのほか、整備不足の地域への新規整備もニーズ量を見極めながら検討していく必要がある。

③放課後児童クラブ(学童保育)の利用料金

●10,000円未満を望む声が7割半ば。利用料が高いと感じる人では8,000円未満が8割。

放課後児童クラブ(学童保育)を利用していない理由の中には、「利用料金がかかる(高いから)」が32.3%あり、利用していない人の3割余りを占めている。

放課後児童クラブの利用料金の希望額としては、「5,000円未満」が45.2%で最も高い。これに次いで「5,000円以上10,000円未満」の29.9%となっている。これらを合わせると10,000円未満を望む声が75.1%となっている。

また、利用料金がかかる(高い)ことを理由に放課後児童クラブを利用していない人の声としては、「5,000円未満」が77.9%で約8割を占めており、全体に比べてより低額が求められていることがわかる。

3. 児童館の利用について

①児童館の利用状況

●児童館の利用率は、小学校区で大きな差が見られる。

現在、児童館を利用している割合は37.3%であり、1年生が36.1%、2年生が50.9%、3年生が33.6%となっている。

利用率は、小学校区別で大きな差が見られ、北玉小学校区(57.3%)や北谷第二小学校区(49.1%)がほかの2校区よりも大幅に高くなっている。

②児童館を利用していない理由

●「子どもが利用したがらないから」が33.1%となっている。

児童館を利用していない理由では、「子どもが利用したがらないから」が33.1%であり、2番目に高い(1番目は「利用する必要がない」の38.6%)。利用したがらないからという声を小学校区別に見ると、浜川小学校区が41.1%で最も高く、他の小学校区より高くなっている。なお、「児童館が近くにないから」は13.1%であった。北谷小学校区が21.3%で、他の小学校区より10~15ポイントほど高い。

■ 自由回答

1 自由回答のまとめ

(1) 就学前児童保護者調査結果より

就学前の自由回答記入数は 192 件であった。回収数は 511 件で、自由回答への記入率は 37.5%となっている。記述式の回答は手間がかかることから、回答者には子育て支援分野への不満や困りごとなど切実な事情を抱えている人が非常に多いとともに、改善への期待が込められていると捉えられる。

保育関連の自由記述内容のみを抜き出して、全体的な傾向をまとめた。

傾向としては、

- ・待機児童の解消
- ・保育士の給与や待遇を良くして確保してほしい
- ・様々な遊具や駐車場が整備された年齢別に利用しやすい広い公園
- ・今ある公園の整備、遊具の修繕や充実
- ・天候に関係なく遊んだり学ぶことができる屋内施設
- ・職場に対して育児への理解と育休やお休みを取りやすい環境づくり
- ・病児保育ができる施設の拡充

このような声が多く見られた。

中でも、待機児童関係の声が数多く、希望する保育施設に入れたい、仕事をしたいが保育園に入れたいために就労できないという声も見られた。また、産休・育休明けの時期や早生まれなど子どもの誕生月によっては保育園入園が難しいという声も見られたため、いつでも(年度の途中からでも)保育園を利用できるよう環境を整える必要がある。

また、保育士の待遇改善と確保を望む声や、職場の育児への理解と休みを取得できる環境づくりを訴える声も目立った。

公園に関する要望も多く、既存の遊具の修繕や誰でも利用しやすい新しい公園を望む声も数多く見られた。

地区ごとに見ると、北谷中学校区では保育園を増やしてほしい、保育園の土曜預かりを勤務証明なしでも利用できるようにしてほしいといった声が見られた。

桑江中学校区では、気軽に相談できる窓口や町外出身者の地域のつながりについて望む声も見られた

(2) 小学生保護者調査結果より

自由回答への記入は 150 件あった。回収数は 856 件であり、自由回答への記入率は 26.6% となっている。

自由回答の中から、全体的な傾向をまとめてみた。

傾向としては、

- ・学童を安くしてほしい
- ・公園をつくってほしい。整備してほしい
- ・放課後、子どもが安全に遊べる場所
- ・長期休暇中に預ってくれる場所
- ・給食費の無料化

このような声が多く見られた。

特に、学童をもっと安くしてほしいという声が多かった。また、地域の中で安全に過ごす場所を求める声が目立ち、放課後過ごす場所として公園のほか児童館や放課後こども教室利用の要望も見られた。

その他、長期休暇中(夏休みなど)に子どもが過ごす場所について悩みを抱えている保護者も多く見られた。

経済的な支援の面では、給食費無償化の要望もあった。

地区ごとに見ると、北谷中学校区では、児童館の利用希望(特に北谷小学校区)、病児保育を望む声が見られた。

桑江中学校区では、通学路に関しての声が多く、北玉小学校区通学路のガードレールの設置、国道 58 号線を横切るためのスクールバスの運用や歩道橋を望む声も見られた。他には、学校内で子どもたちが過ごすことができるよう教室の開放や学童の設置、土日祝に安心して利用できる場所の確保も要望が多い。